

事務事業及び予算の執行実績

(令和5年度分『一部令和6年度分を含む』)

静岡県立浜北特別支援学校

目

次

1	事務事業の概要	1
2	事務執行の根拠法令調	20
3	学校施設の概要	21
4	在籍生徒調	23
5	入学志願者及び入学者数調	25
6	卒業生の動向調	26
7	生徒の状況	27
8	特別支援学校における生産物売払調	29
9	預金調	31
10	郵便等受払調	32
11	材料品受払調	33
12	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	34
13	委託料に関する調	36
14	負担金支出調	41
15	建築工事調	43
16	公有財産調	45
17	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	47
18	行政財産貸付・使用許可調	48
19	主要備品調	49
20	職員調	50
21	職員の年齢調	56
22	健康管理	57

事 務 事 業 の 概 要

1 概 況

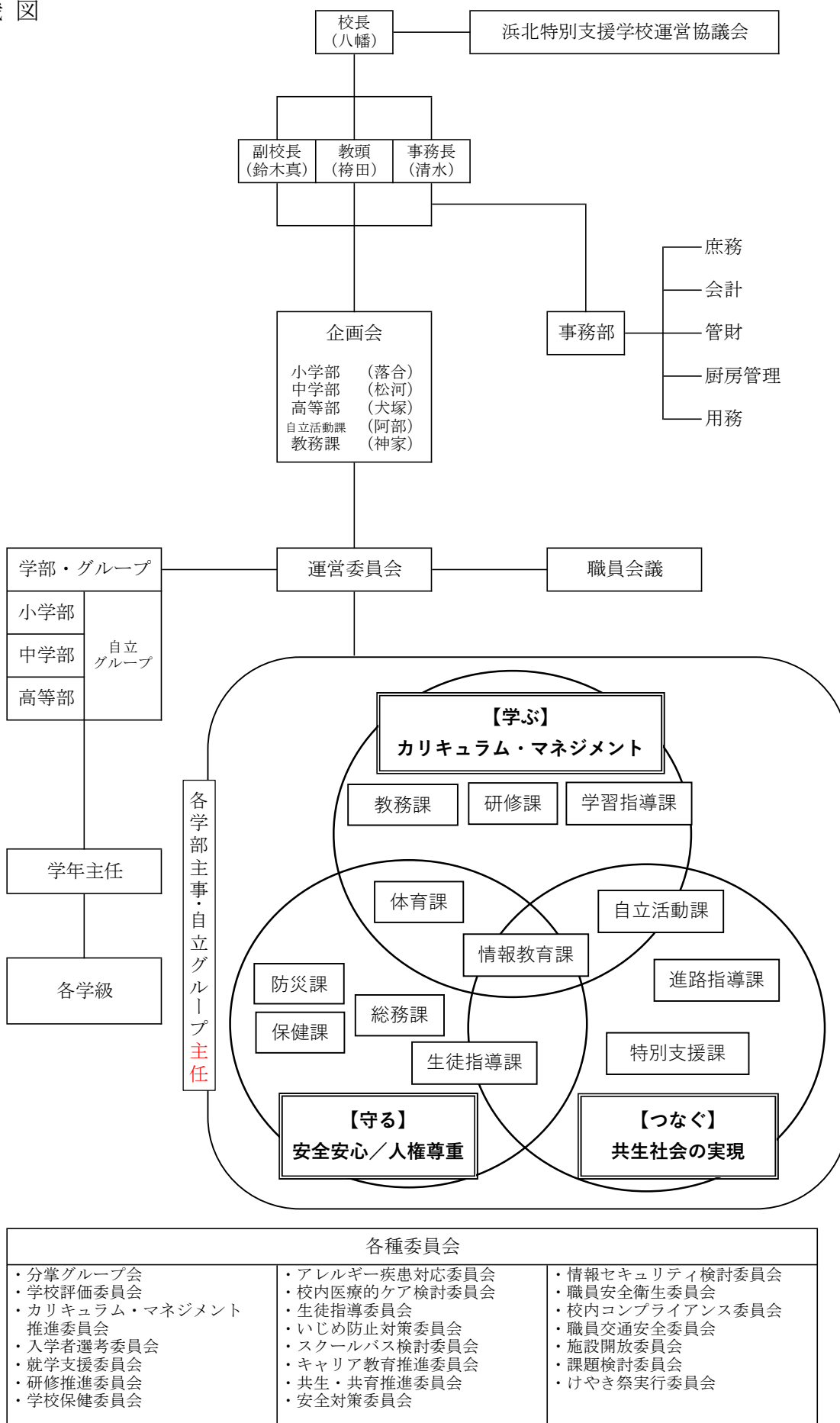
(1) 学校の沿革

平成 13 年 8 月 29 日	第一回浜北市立養護学校県立移管準備委員会開催
平成 16 年 3 月 26 日	浜北市立養護学校県立移管準備委員会「最終報告（案）」策定
平成 17 年 9 月 15 日	県教育委員会定例会において、県立移管に関わる校地を浜北市中瀬地区に選定し、開校年度を平成 21 年 4 月予定と発表
平成 17 年 11 月 18 日	浜北養護学校県立移管地元説明会開催
平成 17 年 12 月 6 日	浜北養護学校県立移管地質調査地元説明会実施 (調査期間 平成 17 年 11 月 25 日～平成 18 年 1 月 31 日)
平成 18 年 3 月 17 日	2 月県議会にて平成 18 年度当初予算に基本設計費を計上
平成 19 年 5 月 28 日	県立浜北養護学校（仮称）整備事業地元説明会実施
平成 20 年 1 月 29 日	県教育委員会定例会において、静岡県立特別支援学校学則の一部改正
平成 20 年 3 月 25 日	県議会にて県立学校設置条例を改正。名称を「静岡県立浜北特別支援学校」とすることを可決
平成 20 年 4 月 1 日	浜松市立浜北養護学校県立移管及び静岡県立浜北特別支援学校設置準備委員会設置
平成 20 年 5 月 12 日	静岡県立浜北特別支援学校 起工式
平成 21 年 4 月 1 日	静岡県立浜北特別支援学校 開校
平成 21 年 4 月 9 日	第 1 回入学式（小学部 18 人、中学部 16 人、高等部 33 人入学）
平成 21 年 4 月 10 日	静岡県立浜北特別支援学校 開校式（児童生徒数 146 人）
平成 22 年 3 月 18 日	第 1 回小学部、中学部卒業式（小学部 9 人、中学部 15 人卒業）
平成 22 年 4 月 1 日	スクールバス 1 台増車（委託）計 3 台で運行
平成 23 年 3 月 15 日	空調設備工事完成（小中学部棟 4 教室）
平成 23 年 12 月 13 日	空調設備工事完成（小中学部棟 8 教室）
平成 24 年 3 月 7 日	第 1 回高等部卒業式（34 人卒業）
平成 24 年 4 月 1 日	スクールバス 1 台増車（委託）計 4 台で運行
平成 26 年 3 月 28 日	災害用仮設トイレ設置工事完成
平成 26 年 4 月 1 日	スクールバス 1 台増車（委託）計 5 台で運行
平成 27 年 2 月 13 日	蓄電池付太陽光発電設備工事完成
平成 29 年 2 月 28 日	空調設備工事完成（職員室）
平成 30 年 11 月 23 日	創立 10 周年記念式典
平成 31 年 4 月 26 日	空調設備工事完成（小中高等学部棟 28 教室）
令和 3 年 4 月 1 日	静岡県立浜北特別支援学校、静岡県立浜松特別支援学校、静岡県立浜名特別支援学校の通学区域の一部を分離し、静岡県立浜松みをつくし特別支援学校開校 スクールバス 2 台減車（委託）計 3 台で運行

【参考：浜北市立養護学校の沿革】

昭和 48 年 4 月 1 日	浜北市立養護学校設置許可（浜北市全域を学区とする）
昭和 48 年 8 月 31 日	浜北市本沢合に新校舎竣工（工事期間：昭和 49 年 3 月～8 月）
昭和 48 年 9 月 10 日	旧校舎（貴布祢）より新校舎（本沢合）へ移転
昭和 52 年 10 月 6 日	運動場拡張工事完成
昭和 55 年 3 月 10 日	校舎増築工事竣工
昭和 62 年 8 月 28 日	プール落成式を挙行
平成 17 年 4 月 1 日	学校名を「浜北市立浜北養護学校」に変更
平成 17 年 7 月 1 日	12 市町村合併により学校名が「浜松市立浜北養護学校」となる
平成 21 年 3 月 21 日	閉校式を挙行

(2) 組織図



2 目指す学校像

(1) 教育目標

児童生徒一人一人が個性を発揮（輝き）し、仲間や地域の「人・もの・こと」との豊かな関わり（絆）を築き、達成感・喜び（感動）を積み上げる教育を通して、「地域で主体的に生き、行動し、生活し、働き、楽しむ（自立）」ことができる人を育てる。

スローガン [友と輝き 地域に生きる（自立）]		
輝き（個性の発揮）	絆（豊かな関わり）	感動（達成感・喜び）

(2) 目指す学校像

- ①児童生徒が主体的に学び、個性を発揮する学校
- ②児童生徒が心身共に健康で、安全・安心に生活する学校
- ③児童生徒と教職員が保護者や地域と連携し、信頼され、豊かに関わる学校
- ④教職員が意欲と笑顔にあふれ、役割を果たし活躍できる学校

(3) 目標具現化の柱

- ア 個性を生かし確かな成長を感じられる教育活動を進める。
 <カリキュラム・マネジメント、年間指導計画、児童生徒理解（実態把握）、学習評価、個別の指導計画、ICT教育>
- イ 具体的な将来像をより明確にした地域で生きる力を培う。
 <キャリア教育、キャリアシート／キャリアパスポート、個別の教育支援計画、自立活動>
- ウ お互いが人を大切にして、笑顔に満ちあふれた学校生活を実現する。
 <人権教育、生徒指導、道徳、あいさつ運動、学校行事>
- エ 明確で実地的な危機管理、安全管理体制を整備する。
 <防災・防犯体制、防災・健康・安全教育>
- オ 地域等とネットワークでつながり、共生社会の実現を目指す。
 <地域とつながる活動、交流及び共同学習、理解啓発活動>
- カ 業務上の役割を果たし、貢献するとともに、業務の効率化を図る。
 <組織改編、業務改善、環境整備、データ・資料の管理>

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和5年度の取組目標への評価及び成果と課題

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	個性を生かし確かな成長を感じられる教育活動を進める	「教育課程の押さえ」を踏まえ、学校全体の調和を図り、学部間／学年間の系統性を実現する教育課程が編成できたと感じる教員 100% - 児童生徒の発達段階を把握し、学習によって身に付けた力を評価規準／基準に沿って適切に評価することができたと感じ	A	A	- 児童生徒それぞれの長所を引き出そうとする学校体制が分かった。 - 様々な工夫があり、いろいろ考えていることが分かる。個別で小から中、高へとつなげていく指導はよく考えられていて安心できる。 - ICTを活用して自ら学習に取り組むことが他と比べ 80%と少し低い達成状況だったので、積極的に取り組んでいただきたかった。

		- る教員 100% ・児童生徒が I C T を活用して自ら学習に取り組むことができたと感じる教員 100%			
イ	具体的な将来像をより明確にした地域で生きる力を培う	・キャリアシートを、学年／学級経営や個別の教育支援計画の立案と評価に生かすことができた教員 100% ・キャリアパスポートで設定した目標を達成できた児童生徒 100% ・キャリアパスポートの目標に向かって児童生徒が力をつけたと感じる保護者 100%	A	A	・将来像を明確に意識するのは難しく、不安や心配も多い部分だと思う。特に中学部から高等部へは未知の部分ばかりなので、見学や体験の機会がもっと増えるといいのではないかなと思う。保護者が学校に入る機会も増えるとよい。
ウ	お互いが人を大切にして、笑顔に満ち溢れた学校生活を実現する	・相手を意識して自ら笑顔であいさつができた児童生徒、教員 100% ・重大ないじめ 0 ・居心地の良い学級／学年／学部を目指して主体的に取り組んだという児童生徒 100% ・学校は楽しい、学校に行きたいなど学校が居場所になっていると答える児童生徒 100%	A	A	・明るい雰囲気为学校になったことに気付いたが、これは「相手を意識して自ら笑顔で～」の実践によるものであろう。 ・笑顔で挨拶してくれる生徒や先生方が本当に多く、とても良い空気感がある。顔を見て声を掛けてくれる機会が多く、親しみやすく安心した場になると思う。今後もぜひ続けてほしい。 ・小学部高学年の児童による挨拶・運動は、低学年児童の手本になるとともに、中学部・高等部の生徒にもいい刺激となると思う。社会に出たときに必要な基本的素養が日々、醸成されていると感じる。 ・生徒と教師の関係性が通常校に比べ、非常に密であり、いじめの有無も含め、生徒の状況はしっかり把握されていると思われる。突発的偶発的な生徒間の暴力等はあるようなので、心のケアは必要かなと思う。

エ	明確で実際の な危機管理・ 安全体制を整 備する	・危機管理マニュアルを活用し、主体的に行動できた教職員 100% ・医療的ケアを含め、ヒヤリハットの活用による重大な事故 0 ・自分の命や健康を自分で守るための取組ができた児童生徒 100% ・通学途上の事故 0	A	A	・危機管理の意識が高く、「報・連・相」がすばらしく徹底していると感じる。
オ	地域とネット ワークでつな がり、共生社 会の実現を目 指す	・地域等の「人・もの・こと」とつながる新たな取組を実現した学年／学部／分掌 100% ・双方の成長を促した交流活動ができたと感じる教員、保護者、相手校 100% ・保護者、教育、就労、医療、福祉機関とつながり、対応を具体化できたと感じる教員 100%	A	A	・本年度は特に地域とのつながりを強くできたように思う。共生社会の実現のために、特別支援学校が変わるのではなく、特別支援学校が発信元となって「地域社会を変える」くらいの気持ちでよいのではないかな。 ・地域の方々が本当に優しく温かく接してくれる場所に学校があり、子どもたちは幸せだと思う。個人でも団体でももっと交流の機会が増え、笑顔で何かと一緒に成すことができればそれ以上に望むものはない。 ・児童生徒の作品、作業製品をぜひ、中瀬コミュニティセンターに掲示したいと思う。センターの利用者に浜北特支の子供たちの感性や頑張りを感じてもらいたいと思う。 ・班長の集まりや「区民と先生の集い」で校長先生に学校紹介をしていただいたことは、とても意義のあることであったと感じる。参加者には好評だった。

力	業務上の役割を果たし、貢献するとともに、業務の効率化を図る	・ 自信と根拠を持って業務に取り組むことができるようになったと感じる教員 100% ・ 所属部署内／所属部署間が協働することで、本校で働くことができて良かったと感じる教職員 100% ・ 不祥事 0 ・ 年間の時間外勤務 360 時間以内 100%	A	A	・ 「自信と根拠の持てる教員」と「本校で働けて良かったと思う教員」の割合が高いことは至って大切なことであり、教職員の自己実現の場所として学校に付与された責任を果たしている。 ・ 先生方の負担が少しでも軽くなるとよい。 ・ 定時退勤しても結局、自宅への仕事の持ち帰りでは、先生たちの多忙感の解消にはならず、悩ましい。 ・ 勤務時間には限りがあるので、学年、学部、学校全体を俯瞰し、慣例的にやっていることや子供のためとして続けていることに関し、外部者の評価を受けて見直す取組は、想定外の気づきが得られるかもしれない。また、保護者に現状説明を行い、業務削減に向けた改善策への理解を得ることも必要になると考える。 ・ 食事、排泄など各種介助や登下校時の配車調整など、教務以外の仕事に関しては外部スタッフ導入など現場レベルではない教育委員会レベルでの施策が必要ではないか。 ・ 次回、自宅への仕事持ち込みや、ZOOM などによる自宅での研修等に関する評価項目が必要なのかもしれない。 ・ 働き方改革が推奨されている中において、教職員の労働環境の整備等が課題である。 ・ 時間外勤務については、定員管理もあり、職員数が変更できないなら業務の見直し、意識改革しか方法はないかと思う。やらないといけなことを削減は出来ないので大変だと思う。
---	-------------------------------	---	---	---	--

(2) 令和 6 年度 of 取組目標・達成方法・成果目標

※ゴシック体で表記された項目は令和 6 年度の重点項目

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	個性を生かし	・ 学習指導要領に基づいた教育課程の編成	・ 「教育課程の押さえ」を踏まえ、学校全体の調和を図り、学部間／学年間の系統性を実現する教育課程が編成できたと考える教員 100%	教務課 学習指導課 研修課 情報教育課 体育課

	確かな成長を感じられる教育活動を進める	・根拠があり個性を生かす個別の指導計画の作成と実践 ・主体的に取り組めるICT教育の実践	・児童生徒の発達段階を把握し、学習によって身に付けた力を評価規準／基準に沿って適切に評価できる教員、評価されたと感じる保護者 100% ・児童生徒がICTを活用して自ら学習に取り組むことができたと考える教員 100%	各学部 (学年/学級)
イ	具体的な将来像をより明確にした地域で生きる力を培う	・将来像を明確化した個別の教育支援計画の立案と評価 ・生活年齢を押さえた段階的なキャリア教育	・自立活動の区分により児童生徒の実態を把握し、個別の教育支援計画の立案と評価に生かすことができた教員 100% ・キャリアパスポートで設定した目標を達成できた児童生徒 100%、目標に向かって児童生徒が力をつけたと感じる保護者 100% ・他学部との系統性や接続を踏まえて目標を設定し、指導できた教員 100%	進路指導課 特別支援課 自立活動課 各学部 (学年/学級)
ウ	お互いが人を大切にして、笑顔に満ち溢れた学校生活を実現する	・自他を大切にする生徒指導 ・お互いを認め合い、協力し合う学級・学年づくり	・相手を意識して自ら笑顔で挨拶ができた児童生徒、教員 100% ・重大ないじめ 0 ・居心地の良い学習集団を目指し、主体的に取り組むことができた児童生徒 100% ・「学校は楽しい」「学校に行きたい」など、学校が居場所になっていると答える児童生徒 100%	生徒指導課 各学部
エ	明確で実地的な危機管理・安全体制を整備する	・危機管理マニュアルを活用した防犯／防災体制づくり ・体験的に取り組む、防災・健康・安全教育	・危機管理マニュアルを活用し、主体的に行動できた教職員 100% ・医療的ケアを含め、ヒヤリハットの活用による重大な事故 0 ・自分の命や健康を自分で守るための取組ができた児童生徒 100% ・通学途上の事故 0	防災課 保健課 体育課 生徒指導課 各学部 事務部
オ	地域等とネットワークでつながり、共生社会の実現を目指す	・地域資源を生かし、絆を深める教育活動 ・共生社会の担い手を目指す交流及び共同学習 ・効果的に保護者、関係機関とつながる理解啓発活動	・地域等の「人・もの・こと」とつながる取組を実現した学年／学部／分掌 100% ・けやき祭(学習発表会)の再開 ・双方の成長を促した交流活動ができたと考える教員、保護者、相手校 100% ・児童生徒の支援ニーズを的確に把握し、課題解決に向けて関係機関と連携できたと考える教員 100%	特別支援課 進路指導課 学習指導課 情報教育課 総務課 各学部

力	業務上の役割を果たし、貢献するとともに、業務の効率化を図る	・一人一人が役割と目的を理解して取り組む教育活動 ・不祥事根絶への取組の徹底 ・時間外勤務の縮減	・自信と根拠を持って業務に取り組むことができたと感じる教員 100% ・所属部署内／所属部署間が協働することで、本校で働くことができて良かったと感じる教職員 100% ・不祥事 0 ・年間時間外勤務 360 時間以内 100%	各学部 (学年/学級) 総務課 関係分掌 事務部
---	-------------------------------	--	--	--------------------------------------

4 監査対象期間における特色ある取組

年度	取 組 概 要	成 果 及 び 課 題
5	1 個性を生かし確かな成長を感じられる教育活動を進める ・「教育課程の押さえ」を踏まえ学校全体の調和を図り、学部間/学年間の系統性を実現する教育課程の編成 ・児童生徒の発達段階を的確に把握し評価規準/基準に沿って適切に評価する為の実践 ・カリキュラム・マネジメント推進委員会での学年主任、学部主事、関係分掌課長による、根拠のある指導の追求 2 具体的な将来像をより明確にした地域で生きる力を培う ・キャリアシート、キャリアパスポートを活用した将来像を明確にした目標設定と学年・学級経営、分掌運営	・学部会や学年会を利用して、学習指導要領や「教育課程の押さえ」について学習や確認する場を設定した。学習指導要領の目標・内容について理解が進み、授業づくりに反映できるようになってきた。 ・「なぜ今この学習活動を行うのか」「この学習がどのように次につながるのか」を問う機会を増やすことで、目指す児童生徒像に迫るための教育課程について考えようとする意識が高まった。 ・各学部と連携し「教育課程の押さえ」の妥当性と教育課程の検討を行った。 ・講演会やコンサルテーションを通して、実態把握や学習評価について学んだ。そこで得た助言を活かし、評価規準／基準を明記する形の単元カードに改善した。 ・学習指導要領の理念や教育課程編成に係る知識を身に付けた。根拠のあるより効果的な教育課程の編成を目指し、月に1回カリキュラム・マネジメント推進委員会を開催した。 ・小学部ではキャリアシートにある言葉から学年の合言葉を決め、児童も教師も合言葉を意識できるように、掲示したり日常生活に取り入れたりした。キャリアパスポートは写真やイラスト等児童にわかる方法で目標表記をして学期ごとに振り返った。 ・中学部ではキャリアシートを基にして各学年の経営案を設定した。生徒は、1年後に目指す姿を考えキャリアパスポートに目標を掲げ、その目標を基にして月目標や週目標、今日の目標を決め取り組んだ。 ・高等部ではキャリアパスポートの目標に対して、生徒と担任が毎月振り返りの機会を設けた。

5	3 お互いがひとを大切にして、笑顔に満ち溢れた学校生活を実現する ・全学部で取り組む挨拶運動の実施 ・教員に対しての2カ月に1回の人権感覚チェック、年間4回の人権研修 4 明確で実地的な危機管理、安全管理体制を整備する ・主体的に行動できる教職員を目指した危機管理マニュアルの活用 ・ICTの活用や地域防災センターを活用した体験的な安全教育 ・ヒヤリハット事例の迅速な共有と対応策の検討 5 地域等とネットワークで繋がり、共生社会の実現を目指す。 ・地域資源を生かし絆を深める教育活動の実践	・全学部で児童生徒の実態に応じて工夫をしながら、年間を通しての挨拶運動を実施した。 ・小学部では、あいさつ名人の掲示や、ボランティア（ケヤキの会）を招いての挨拶運動を実施し、交流しながら生き生きと活動した。 ・中学部では、挨拶週間を設定し生徒の実行委員会を中心に実践した。また、各学年に挨拶推進係を任命し取り組んだ。 ・各学部の実態に合った委員会活動を行った。委員会活動をとおして自分の強みを発揮すること、他を意識すること、感謝する、される経験、人の役に立つ経験を積むこと、自己有用感を高めることを目指して取り組んだ。 ・人権感覚チェック、年間4回の人権研修で教職員の人権意識を高めて、日々の指導に当たった。 ・風通しの良い職場を目指し、掲示板や職員会議で挨拶の大切さを繰り返し伝えた。 ・避難訓練事後に反省する時間を設けたり、シェイクアウト訓練（一時避難までの避難訓練）と集合訓練を組み合わせ実施したりした。 ・危機管理マニュアルを使って災害時の役割を確認する訓練を行った。 ・高等部では、危機管理マニュアル早見表を活用して、学年会や学部会で初動体制を確認する訓練を実施した。 ・中学部では生活単元学習で災害・防災について学んだ。調べたことを掲示物にして他学年に向けて発表した。 ・中学部の宿泊学習、高等部の校外学習で浜松市防災センターを活用し防災について体験的な学びをした。 ・ヒヤリハットや事故発生時には、ヒヤリハット報告書を活用し、関係者で要因を分析し報告、共有し再発防止に取り組んだ。 ・小学部では、運動会や学校間交流会、委員会活動、音楽鑑賞会等の場でボランティア（ケヤキの会）の方々と交流を深めた。 ・中学部作業学習では、かやの木ボランティア協力を得た。道具の使い方の指導だけでなく
---	---	--

5	・対面や ICT を活用した学校間交流の復活 ・福祉、就労、医療等との効果的なつながりによる教育活動への理解啓発 6 業務上の役割を果たし、貢献するとともに業務の効率化を図る ・学部、学年でのケース会議やワンポイント学習会、メンタリングサークルの実施により自信と根拠をもって指導できる教職員の育成 ・分掌グループ会の編成による業務の精選、連携、効率化の向上	く、生徒の良い所を認め励ましの言葉を掛けていただき、生徒の活動への意欲が高まった。また目上の方への接し方を学ぶ良い機会となった。 ・高等部の地域販売会では、昨年に引き続き、地域の自治会を通じてチラシを配布したり、近隣の商業施設にポスターを張ったりして、本校の魅力を発信することができた。また、地域に向けての販売会をすることで達成感を味わうことができた。 ・小学部は交流校児童を本校に招いての交流を実施した。 ・中学部は1学期に交流校からの送られた紹介動画を視聴した。11月には、交流校代表生徒30人が来校し、本校生徒との音楽交流を行った。来校せずに相手校体育館に残る生徒とオンラインで結び、同時に視聴参加をした。 ・学校間交流校である県立浜名高等学校での清掃活動を行った。生徒たちは感謝の言葉をいただき、進んで活動した。 ・放課後等デイサービス事業所連絡会を実施した。特別支援教育や本校について知ることができたと高評価であった。 ・高等学校の連携校訪問を2校実施した。 ・小学部では学部会や学年会でケース会議や専門性に関するミニ学習会を設定し、担当分掌課員が運営に当たった。 ・学習指導要領やラーニングマップ、学校教育目標、学部経営案等を提示しながら話合った。 ・関係分掌と課題や対応策を共有し、連携を図った。
年度	取 組 概 要	進捗状況
6	1 個性を生かし確かな成長を感じられる教育活動の充実 ・「教育課程の押さえ」を踏まえ学校全体の調和を図り、学部間/学年間の系統性を実現する教育課程の編成（月に1回カリキュラムマネジメント推進委員会の開催） ・児童生徒の発達段階を的確に把握	・学習指導要領や「教育課程の押さえ（令和4年度作成）」をもとに、各学部で学年間の学習の積み重ねや系統性について検討を進めている。 ・学部主事と学年主任を中心に教育課程を見直すカリキュラムマネジメント推進委員会に加え、全職員で各教科等の学習内容を考える機会を設ける。 ・学習会やコンサルテーションを通して、実態

6	し評価規準/基準に沿って適切に評価する為の実践 2 安心で安全な学校体制の整備 ・ 人権意識の向上 ・ 自他を大切にする生徒指導 ・ 災害時に備えた安全点検の実施 ・ 計画的な防災訓練と危機管理マニュアルの見直し 3 地域との連携と共生社会の実現 ・ 地域資源を生かし、絆を深める教育活動の実践 ・ 共生社会の担い手を目指す学校間交流 ・ 効果的な支援会議の実施	把握や評価規準／基準について学ぶとともに、グループワークで評価規準をもとに学習評価について話し合いを行っている。児童生徒の確かな成長のために、話し合いで出された意見を取り入れ、授業をブラッシュアップしていく。 ・ 人権研修や自分の言動について振り返る機会を設け、人権意識を高めている。 ・ 生活アンケートやいじめアンケートを実施し、児童生徒の様子を把握し、丁寧な聞き取りや個に応じた対応を行っている。 ・ 全学部で児童生徒の実態に応じた方法で挨拶運動を実施している。また、児童生徒のみでなく、教職員自身も気持ちの良い挨拶を心掛けている。 ・ 月に1回、教室等の安全点検を行っている。破損個所がないかを確認するとともに、高い位置に重い物が置いてないか、棚や机は固定されているか等防災の視点も取り入れている。 ・ 災害時に備え、校舎内の長机やつい立などを固定できるよう準備を進めている。 ・ あらゆる場面を想定して、防災訓練を計画的に実施することで、児童生徒が落ち着いて行動できるようになってきている。 ・ 危機管理マニュアルの見直しを行い、より活用しやすいものにしていく。 ・ 小学部では、挨拶運動や学校間交流の機会に地域ボランティア（ケヤキの会）の方々と一緒に活動し、交流を深めている。 ・ 中学部では、地域の方々と花の苗の植え付けや野菜の栽培、収穫等を継続的に行っている。 ・ 高等部では、地域の方々を招いた販売会を実施するため、チラシの配布や宣伝を行った。本校の魅力を発信する機会となっている。 ・ 小学部では、ビデオレターでのやり取りや各学年で直接交流を行い、児童の生き生きとした姿が見られた。 ・ 中学部では、音楽交流を行った。互いの良さを実感する機会となった。 ・ 高等部では、作業製品の展示や清掃活動を通して交流を深めている。 ・ 児童生徒の支援ニーズの実現や保護者の困り
---	---	--

6	・センター的機能としての役割	感の解決に向けて、関係機関と連携した支援会議に取り組んでいる。 ・コーディネーターが地域の学校を訪問し児童生徒の観察や支援方法の助言を行っている。 ・全職員対象に行った業務改善アンケートから、業務内容を整理した。改善方法を管理職、各学部、学年、分掌で検討している。 ・放課後に、授業の話し合いや児童生徒の指導支援について検討をする時間を確保するために、日課の見直しを行っている。教員一人一人が専門性を高め、自信と根拠をもった業務の遂行を目指す。 ・19時退勤が定着し、各個人がタイムマネジメントを行い、効率的に業務を遂行しようという意識が高まってきている。 ・分掌同士が連携して業務にあたることで効率化が進んでいる。
	4 業務改善と授業づくりの時間の確保	
	・アンケートをもとにした業務の見直し	
	・協働体制による業務の効率化	

5 教職員について

(1) 令和5年度異動状況

職名 区分	本 務 職 員												臨時・会計年度任用職員										合 計		
	教 育 職 員						行 政 職 員						本 務 計	教 諭 (任)	教 諭 (臨)	主 事 (臨)	医療的ケア看護職員	非常勤嘱託員	非常勤労務職員	就労促進専門員	校 医 等	臨 時 計			
	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養護教諭	栄養教諭	小 計	事 務 長	主 査	主 任	主 事	主任技能員												小 計	
転出者	1		1	25	1	1	29							29	1									1	30
退職者				7			7		1				1	8	8	4	1		3	2				18	26
再任用 (転出・退職)																									
転入者	1		1	19	1	1	23		1				1	24	1									1	25
新任者				7			7							7	1	4			1					6	13
再任用 (新任)				1			1							1										0	1
差引増減	0		0	-5	0	0	-5		0				0	-5	-7	0	-1		-3	-1				-12	-17

(2) 現 員 数

(令和6年10月31日現在)

職	本 務 職 員												臨時・会計年度任用職員										合 計
	教 育 職 員						行 政 職 員						教 諭	教 諭	勤 務	ア シ ス タ ン ト	非 常 勤	非 常 勤	非 常 勤	就 労 促 進 専 門 員	校 医 等	時 計	

名	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	栄 養 教 諭	小 計	事 務 長	主 査	主 任	主任 技能 員	小 計	務 計										
	1	1	1	118	2	1	124	1	2	1	1	5	129	10	16	4	5	2	7	1	7	52	181

(3) 健康管理について

ア 令和5年度

- (ア) 結核健診・生活習慣病検診・指定年齢健診・人間ドック・婦人科検診・脳ドックなど適切な健康診断の受診を勧め、疾病の早期発見に努めた。
- (イ) 定期健康診断を完全実施し、要精密者に対して再検査の受診を促した。その結果、対象者全員が再検査を受け、区分が確定した。
- (ウ) 健康管理医による事後措置区分の結果を受けて、職員安全衛生委員会で取り上げ、職員の健康状態を把握した。
- (エ) 日常の健康管理については、特に腰痛予防に配慮するよう自己管理を促した。
- (オ) 職員安全衛生委員会を年12回開催し、職員の健康管理や職場の環境改善等について協議した。なお、毎週水曜日を定時退勤日として17時半施錠を実施した。

内 容	実 施 回 数 等
仕事の効率アップ対策	学校全体で取り組んだ。
腰痛予防講座への参加	1月に1回実施した。
メンタルヘルス対策	毎週末掲示板で呼びかけ

- (カ) 教職員サポートルーム指定面談を原則採用2年目教員、6人を対象として12月に実施した。該当者一人につき1時間程度の面談であったが、効果的な面談となった。

イ 令和6年度

- (ア) 結核健診・生活習慣病検診・指定年齢健診・人間ドック・婦人科検診・脳ドックなど、適切な健康診断の受診を勧め、疾病の早期発見に努めている。
- (イ) 定期健康診断の完全実施を目指すとともに要精密者に対して再検査の受診を促す。
- (ウ) 健康管理医による事後措置区分の結果を受けて、職員安全衛生委員会で取り上げ、職員の健康状態を把握する。
- (エ) 日常の健康管理については、特に腰痛予防に配慮するよう自己管理を促している。
- (オ) 職員安全衛生委員会を年12回予定し、10月までに7回開催した。職員の健康管理や職場の環境改善等について協議している。なお11月以降、5回開催を予定している。毎週水曜日を定時退勤日として17時半完全施錠を実施している。

内 容	実 施 回 数 等
仕事の効率アップ対策	学校全体で取り組む。
腰痛予防講座への参加	1月に1回実施予定
メンタルヘルス講座への参加	10・11月に2回実施予定

- (カ) 教職員サポートルーム指定面談を、採用2年目と今年度本校に異動してきた教職員14人を対象として令和6年度中に実施する。該当者一人につき40分から60分程度の面談で、効果的な面談となるように計画する。

(4) 教職員の研修について

ア 令和5年度

目 的	成果と課題
(ア) 授業力の向上	・研修テーマを「個に応じた目標設定・学習評価」と掲げ、窓口を国語科、算数科、数学科、自立活動（個別の課題）とした。それぞれに共通の実態把握ツールを活用し、よりの確な目標設定を目指して取り組んだ。また、単元カードに評価規準と評価基準を明記して、学習評価を行った。 ・外部助言者によるコンサルテーションを行い、指導助言を得ながら授業づくりや授業改善に取り組んだ。 ・講演会を年2回実施。スーパーバイザー（山元薫准教授）を招聘し、「ラーニングマップを活用した実態把握・目標設定」と「学習評価」について学び、教科の授業づくりや評価規準の設定について理解を深めた。
(イ) 専門性の向上	・特別支援学校での経験2年目までの教員を対象に、基礎基本研修を年間4回実施。指導や授業づくりに役立つ基礎的な内容を学んだり、実践に関する悩みを学年主任に相談する機会を設けたりしてOJTの活性化を図った。 ・NPO法人支援機器普及促進協会の高松崇氏を招聘して「ICTを活用した国語、算数（数学）の授業づくり」について研修をし、子どもたちの興味や学習の幅を広げるための活用方法を学んだ。 ・カリキュラム・マネジメント推進委員会に、静岡大学の山元薫准教授を招聘して、評価を核としたマネジメントサイクルの重要性について理解を深めた。 ・外部講師（OT、PT、ST）を招いての事例研修を年開5回実施した。児童生徒の実態に合った自立活動の指導の充実につながった。 ・進路指導に関する研修として、夏季休業中に福祉施設見学を実施した。特別支援教育の経験が浅い教員から、卒業後の進路についてイメージすることができた。
(ウ) 危機管理意識の向上	・医療的ケアについて、ハリーコール訓練を前期に実施した。各グループに合った事例を挙げて訓練することで実感のこもった訓練となり、危機管理の意識が高まった。 ・ヒヤリハット報告で課題を分析した。学校全体で共有した方が良いと判断した場合は時間をおかず周知徹底した。 ・シェイクアウト訓練を取り入れ訓練の回数を増やした。 ・災害時、一人一人の教員がより迅速に行動できるよう、簡易版危機管理マニュアルを作成した。
(エ) 不祥事根絶研修	・4月から6回、コンプライアンス通信等を活用して不祥事根絶を

	校内掲示板で呼び掛けた。 ・ 4月に他校で起きた個人情報入りUSB紛失の事案を受け、全職員に周知するとともに、情報管理についての意識高揚を求めた。 ・ 6月から7月が不祥事根絶推進月間であることを受け、コンプライアンス通信とともに「ハラスメントの防止等に関する指針」の全職員での共有を図った。加えて夏季休業に向け、綱紀の厳正保持及び交通安全意識の徹底を呼び掛けた。
--	--

イ 令和6年度

テーマを「個に応じた目標設定・学習評価」と掲げて推進する。主にラーニングマップ（静岡大学山元薫准教授・提唱）を活用して実態把握を行い、的確な目標を設定、それに基づく実践をめざす。また、評価規準・評価基準を明確に設けて児童生徒の学習状況を適切に評価できる専門性の向上を目指す。

目 的	内 容
(ア)授業力の向上	・ 研修の窓口を前年度から継続して国語科、算数科、数学科、自立活動（個別の課題）とする。 ・ 単元カードや実態把握ツールを活用して、評価規準と評価基準を設定した単元構想と学習評価を行う。 ・ 外部助言者によるコンサルテーションを行い、授業実践についての指導助言を得る。 ・ 講演会を年2回実施。スーパーバイザー（山元薫准教授）を招聘し「国語、算数・数学科の授業づくり」について継続的に学ぶ。 ・ はごろも『夢』講演会を1回実施し、NPO法人支援機器普及促進協会の高松崇氏を招聘して「授業場面を想定した情報機器の活用と演習」について研修する。
(イ)専門性の向上	・ 昨年度から継続して、PT,OT,STによる自立活動講座、作業学習における陶芸や革工芸の専門家等を招聘し、指導に必要な専門的知識を学ぶ。 ・ 指導医を講師に招き、医療的ケアに関する専門的知識や児童生徒の体や障害の特徴について学ぶ。
(ウ)危機管理意識の向上	・ 全職員悉皆での人権研修を実施し、人権意識を高める。 ・ 緊急時対応マニュアルの読み合わせや、ハリーコール訓練下校時緊急時対応訓練（図上）で緊急時の対応への意識を高める。
(エ)不祥事根絶研修	・ 定期的にコンプライアンス通信等を活用して不祥事根絶を校内掲示板で呼び掛けると同時に、夕礼での注意喚起を行った。 ・ 6月から7月が不祥事根絶推進月間であることを受け、コンプライアンス通信等を活用し、全職員での共通理解を図った。加えて夏季休業に向け、綱紀の厳正保持及び交通安全意識の徹底を呼び掛けた。特に飲酒運転に関連し、アルコールチェックの徹底を確認した。

6 防災対策について

南海トラフ地震を想定し、大規模地震に備えるため、総合的な地震対策を整える。合わせて児童生徒の生命や身体の安全を確保し、施設設備の保全を図るため、下記の基本方針で取り組

んでいる。多角的な視点から洪水や火災など様々な防災対策について見直し、児童生徒、教職員等が「自分の命を自分で守る」ためにどう行動すべきかを考えられるような防災教育を行ったり、わかりやすい危機管理・安全体制を整備したりすることが課題である。

- (1) 校長を総指揮とする安全対策委員会を設置し、防災体制に関して改善を図る。
- (2) 浜松市地域防災計画における本校の役割について確認し、浜松市危機管理課との連携を密にする。
- (3) 学校防災計画の保護者への周知徹底を図る。緊急連絡の方法を検討する。
- (4) 非常防災設備の定期点検を行う。
- (5) 児童生徒の生命や身体の安全確保を図るため、状況に応じた避難誘導対策を十分に検討し、日頃から訓練を積み重ねる。児童生徒の在校時における南海トラフ臨時地震情報の発令状況を想定した防災避難訓練を計画的に実施する。
- (6) 浜松市と連携し、障害者や老人等、災害弱者のための福祉避難所としての開設を準備する。

ア 令和5年度

(ア) 目 標

- ・「自分の命を自分で守る」ことができる児童生徒を育てるための防災教育の充実を図る。
- ・教職員が主体的に行動できるよう危機管理・安全体制を整備する。
- ・様々な災害時の対応について児童生徒、教職員、保護者、地域、関係機関で共通理解を図り、明確で実地的な防災・防犯体制をつくる。

(イ) 実施内容

実 施 日	想 定	訓 練 内 容	対 象 者
5.4.25	地震（シェイクアウト訓練）	一次避難の確認	児童生徒 教職員
5.5.22	地震	避難経路の確認 避難の約束の確認 地震体験車体験 防災講話	児童生徒 教職員 該当学年児童生徒
5.6.27	洪水	避難経路、避難教室の確認	児童生徒 教職員
5.8.4	発災	災害班の動きの確認	教職員
5.9.4	発災	非常食体験 寝袋体験	児童生徒 教職員
5.9.4	南海トラフ臨時地震情報（調査中）発表	保護者への連絡、引き渡し Web171 を利用した児童生徒安否確認訓練	児童生徒 教職員 保護者
5.9.4	発災	マンホールトイレ設置 発電機点検	教職員
5.9.26	火災	一次避難の確認	児童生徒 教職員
5.11.6	火災	避難経路の確認 火災報知機を使用した訓練 煙学習 防火扉を通る訓練	児童生徒 教職員 該当学年児童生徒
6.1	発災	予告なしの訓練	児童生徒 教職員

(ウ) 成果と課題

防災教育の充実では、「自分の命を自分で守る」ための授業を避難訓練の事前と事後で学習を行った。安全教育で使える災害時の動画や写真、パワーポイントなどを防災課より提案し、各学部で児童生徒の実態に合わせて工夫し指導することができた。

危機管理・安全体制を整備では、様々な災害責任者をつくったり、夏季防災研修で発災時での各班の役割を確認したりしたことで、細かな役割や動きを一人ひとりが主体的に考えることができた。研修や防災訓練から得られた意見を聞いて危機管理マニュアルへ反映することができた。

また、年間計画を年9回から年7回へ減らして反省する時間をつくったり、同じ災害の避難訓練をシェイクアウト訓練と集合訓練を近い日付で行うようにしてすぐに改善できるようにしたりしたことで、反省を確実に改善へ繋げることができた。

イ 令和6年度

(ア) 目 標

- ・学校安全計画に基づき、「自分の命を自分で守る」ことができる児童生徒を育てるための防災教育の充実を図る。
- ・児童生徒と教職員が主体的に行動できるよう危機管理・安全体制を整備する。
- ・様々な災害時の対応について児童生徒、教職員、保護者、地域、関係機関で共通理解を図り、明確で実地的な防災・防犯体制をつくる。

(イ) 実施内容

実 施 日	想 定	訓 練 内 容	対 象 者
6.5.1	地震	Web171 を利用した児童生徒安否確認訓練	保護者 教職員
6.5.28	地震	避難経路の確認 避難の約束の確認 地震体験車体験 防災講話	児童生徒 教職員 該当学年児童生徒
6.6.25	洪水	避難経路、避難教室の確認	児童生徒 教職員
6.8.30	夏季防災研修	発災時での各班の役割確認 マンホールトイレ設置	教職員
6.9.3	発災	非常食体験 寝袋体験	児童生徒 教職員
6.9.3	南海トラフ臨時地震情報（調査中）発表	保護者への連絡、引き渡し	児童生徒 教職員 保護者
6.9.3	発災	発電機点検	教職員
6.11.5	火災	避難経路の確認 火災報知機を使用した訓練 煙学習 防火扉を通る訓練	児童生徒 教職員 該当学年児童生徒
6.12.20	地震	下校時避難訓練 出欠状況、下校方法確認 放デイ送迎の児童生徒安否確認 自力通学の児童生徒の対応 スクールバス下校の児童生徒の対応	教職員 放デイ職員

(ウ) 進捗状況

防災教育の充実では、「自分の命を自分で守る」ための学習としてコロナ後から初めてとなる火災時の煙体験を実施した。消防署と協力して実際に煙のある教室を用意し、ハンカチで鼻と口を押さえる、低い姿勢で壁伝いに避難するなどのポイントを絞って火災時の安全な行動の仕方を身に付けることができた。事前に煙学習としての動画やクイズなどを防災課より提案することで、各学部で児童生徒の実態に合わせて工夫して煙学習により興味をもてるようにすることができた。

危機管理・安全体制を整備では、夏季防災研修で分掌ごとに集まり、災害発生時の役割や動き、分担場所や管理備品の確認とマニュアルに不備がないかを見ることで、危機管理マニュアルに反映して危機管理・安全体制を整備していく。また、実際の体験を踏まえ、危機管理マニュアルの南海トラフ地震臨時情報発令時の対応を見直していく。危機管理マニュアルはデータ化をしてグーグルアカウントから全職員がインターネットを通じていつでも最新のものが確認できるように整備できた。

7 学校開放について

地域に開かれ地域と連携のできる学校となるため、教育活動に支障のない範囲で施設の開放を行っている。

令和5年4月1日から令和6年10月31日までの開放実績

番号	利用団体名	利用目的	利用回数 (回)	利用人数 (延人数)	利用者負担金 (円)
1	F.C. フォルミーガ	少年サッカー	26	1,520	0
2	一般社団法人アレスグート	障害児スポーツ教室	33	501	6,518
3	子育てセンターしばもと	こども園運動会	6	928	0
4	中瀬4区青少年育成会	レクリエーション	1	110	0
5	遠州こどもきょうだいで会ミントモ	レクリエーション	1	47	0
計			67	3,106	6,518

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第 1 条、第 2 条） 学校教育法（第 1 条、第 2 条、第 3 条、第 72 条、第 73 条、第 74 条、第 76 条、第 77 条、第 81 条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第 5 条） 学校給食法（第 4 条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第 3 条） いじめ防止対策推進法（第 8 条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学支援委員会規則 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領
2 学校の管理・運営 に関すること	学校教育法（第 137 条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第 33 条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第 21 条、第 22 条） 学校保健安全法（第 15 条、第 27 条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第 3 条、第 4 条） 静岡県教育委員会処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第 2 条、第 3 条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費補助金交付要綱 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第 16 条、第 17 条） 社会教育法（第 43 条、第 45 条、第 47 条、第 48 条）

学 校 施 設 の 概 要

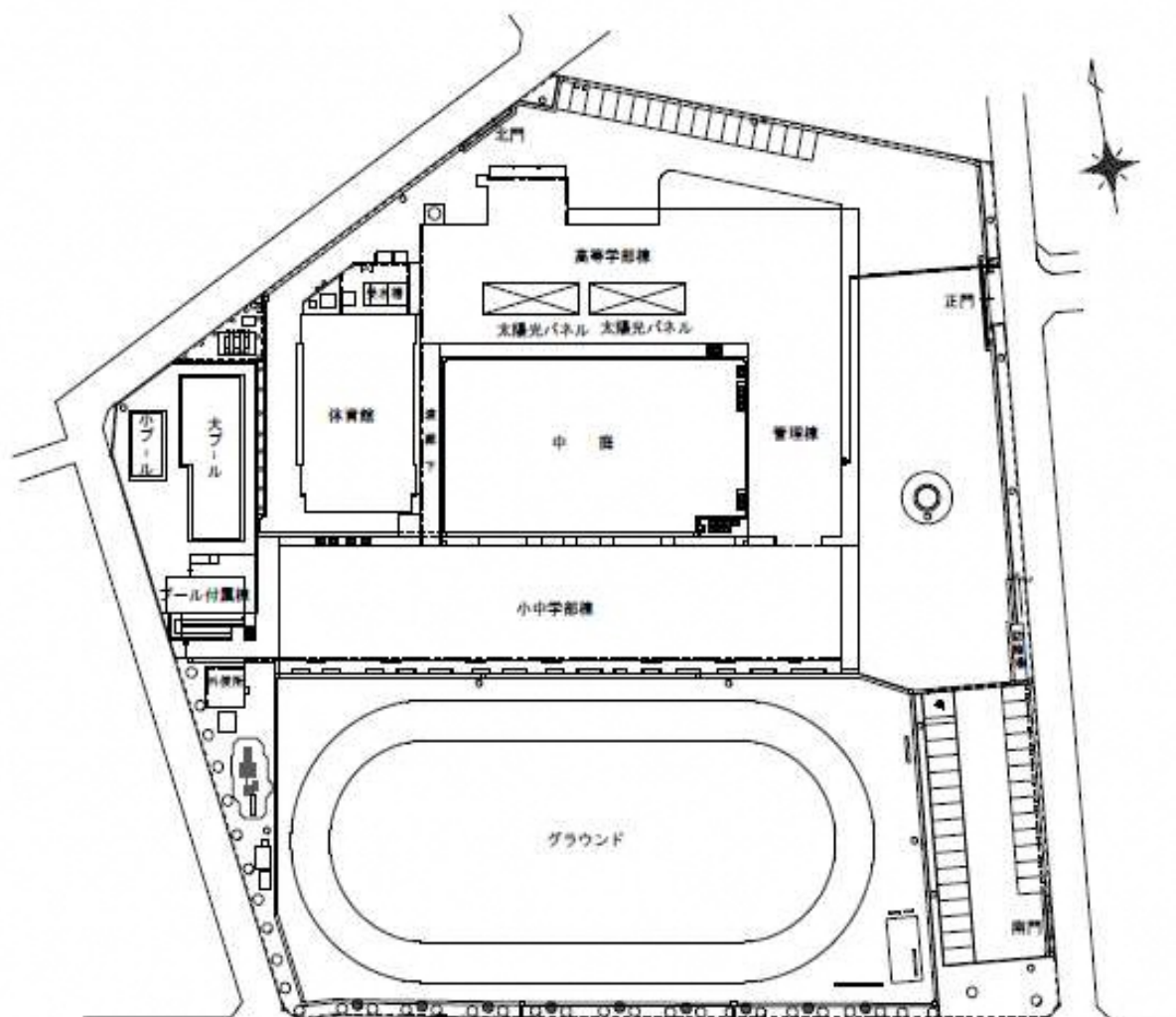
1 面積及び所有区分

(令和6年10月31日現在)

区 分		面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
			県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地		18,001.20	18,001.20					
内 訳	校 舎 敷 地	13,070.00	13,070.00					
	運 動 場 敷 地	4,931.20	4,931.20					
	その他の敷地							
校 舎	建	3,919.07	3,919.07					
	延	6,929.55	6,929.55					
体 育 館	建	559.52	559.52					
	延	549.85	549.85					
その他の建物	建	198.49	198.49					
	延	103.99	103.99					
プ ー ル		2 個	2 個					大25m×8m 5コース 小10m×5m

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区 分	学 校 敷 地 面 積	校 舎 延 面 積	運 動 場 面 積
当 校	18,001.20 m ²	6,929.55 m ²	4,931.20 m ²
県 平 均	18,814.78 m ²	6,361.36 m ²	5,244.39 m ²

在 籍 生 徒 調

(小学部)

(令和6年10月31日現在)

学年	区 分	定員	男子	女子	計
1年	入 学 者	—	9	4	13
	増 加				
	減 少				
	現 在		9	4	13
2年	入 学 者	—	17	9	26
	増 加				
	減 少				
	2年時当初		17	9	26
	増 加				
	減 少				
	現 在		17	9	26
3年	入 学 者	—	20	2	22
	増 加				
	減 少				
	2年時当初		20	2	22
	増 加				
	減 少				
	3年時当初		20	2	22
	増 加		1		1
	減 少		1		1
	現 在		20	2	22
4年	入 学 者	—	10	4	14
	増 加				
	減 少				
	2年時当初		10	4	14
	増 加				
	減 少				
	3年時当初		10	4	14
	増 加		2		2
	減 少				
	4年時当初		12	4	16
	増 加				
	減 少				
	現 在		12	4	16

学年	区 分	定員	男子	女子	計
5年	入 学 者	—	20	4	24
	増 加				
	減 少		9	2	11
	2年時当初		11	2	13
	増 加		1		1
	減 少				
	3年時当初		12	2	14
	増 加		2		2
	減 少		1		1
	4年時当初		13	2	15
	増 加				
	減 少				
	5年時当初		13	2	15
6年	増 加				
	減 少				
	現 在		13	2	15
	入 学 者	—	21	4	25
	増 加		1		1
	減 少		1		1
	2年時当初		21	4	25
	増 加			1	1
	減 少		7	1	8
	3年時当初		14	4	18
	増 加		2		2
	減 少				
	4年時当初		16	4	20
	増 加		1		1
	減 少				
	5年時当初		17	4	21
	増 加				
	減 少		1		1
	6年時当初		16	4	20
	増 加				
	減 少				
	現 在		16	4	20
小 学 部 計		—	87	25	112

在 籍 生 徒 調

(中学部)

学年	区 分	定員	男子	女子	計
1年	入 学 者	—	18	8	26
	増 加				
	減 少				
	現 在		18	8	26
2年	入 学 者	—	13	7	20
	増 加				
	減 少		1		1
	2年時当初		12	7	19
	増 加		1		
	減 少				
	現 在		13	7	20
3年	入 学 者	—	15	7	22
	増 加				
	減 少		1	1	2
	2年時当初		14	6	20
	増 加				
	減 少		1		
	3年時当初		13	6	19
	増 加				
	減 少				
	現 在		13	6	19
中 学 部 計		—	44	21	65

(高等部) (令和6年10月31日現在)

学年	区 分	定員	男子	女子	計
1年	入 学 者	45	28	17	45
	増 加				
	減 少				
	現 在		28	17	45
2年	入 学 者	33	16	13	29
	増 加				
	減 少		1		1
	2年時当初		15	13	28
	増 加				
	減 少				
	現 在		15	13	28
3年	入 学 者	42	25	8	33
	増 加				
	減 少				
	2年時当初		25	8	33
	増 加				
	減 少				
	3年時当初		25	8	33
	増 加				
	減 少				
	現 在		25	8	33
高 等 部 計		120	68	38	106

入学志願者及び入学者数調

区 分		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
学 科 別		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
生徒定員 (A)		54	36	42	33	54
募集者数 (B)		54	36	42	33	54
志願者数	男	28 (0)	21 (0)	25 (0)	16 (0)	28 (0)
	女	18 (0)	11 (0)	8 (0)	13 (0)	17 (0)
	計 (C)	46 (0)	32 (0)	33 (0)	29 (0)	45 (0)
受検者数	男	28 (0)	21 (0)	25 (0)	16 (0)	28 (0)
	女	18 (0)	11 (0)	8 (0)	13 (0)	17 (0)
	計 (D)	46 (0)	32 (0)	33 (0)	29 (0)	45 (0)
合格者数	男	28 (0)	21 (0)	25 (0)	16 (0)	28 (0)
	女	18 (0)	11 (0)	8 (0)	13 (0)	17 (0)
	計 (E)	46 (0)	32 (0)	33 (0)	29 (0)	45 (0)
志願倍率 (C) / (B)		0.85	0.89	0.79	0.87	0.83
受検倍率 (D) / (B)		0.85	0.89	0.79	0.87	0.83
入学者数	男	28	21	25	16	28
	女	18	11	8	13	17
	計 (F)	46	32	33	29	45
充 足 率 (F) / (A)		0.85	0.89	0.79	0.87	0.83

卒業生の動向調

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				
	定時制				
	通信制				
特別支援学校高等部		30			30
その他高等学校等					
大学等	大学(学部)				
	短期大学(本科)				
	大学・短大の通信教育学部等				
	その他大学等				
特別支援学校高等部専攻科					
専修学校(専門課程)					
専修学校(一般課程)・各種学校					
公共職業能力開発施設等					
就 職			7		7
上 記 以 外 ※			20		20
不 詳 ・ 死 亡					
計 (卒業者総数)		30	27		57

(再掲) 「上記以外※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区 分		中学部	高 等 部		合 計
			本 科	専攻科	
児童福祉施設					
障害者支援施設			20		20
(うち就労系支援事業利用者)		()	(8)	()	(8)
医療機関					
計			20		20

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和6年10月31日現在) (単位：人)

市町名	浜松市	磐田市	その他	合 計
生徒数	268	15		283
構成比%	94.7%	5.3%		100%

(2) 通学方法 (令和6年10月31日現在) (単位：人)

区 分	スクールバス	保護者送迎			自主通学			合 計
		徒歩	自家用車	公共機関	徒歩	自転車	公共機関	
生徒数	93	3	116	1	6	17	47	283
構成比%	32.9%	1.0%	41.0%	0.4%	2.1%	6.0%	16.6%	100%

2 部（クラブ）の加入状況

(令和6年10月31日現在) (単位：人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ) 数		3	2		5
男子	1 年	9	5	14	28
	2 年	10	1	4	15
	3 年	11	2	12	25
	計 (A)	30	8	30	68
	構成比	44%	12%	44%	100%
女子	1 年	0	7	10	17
	2 年	4	6	3	13
	3 年	3	4	1	8
	計 (B)	7	17	14	38
	構成比	18%	45%	37%	100%
合計 (A + B)		37	25	44	106

	構成比	35%	24%	41%	100%
--	-----	-----	-----	-----	------

3 障害別児童生徒数 (令和6年10月31日現在) (単位:人)

区 分		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合 計	学級数
小学部	単一障害	7	9	10	11	8	8	53	12
	重複障害	5	11	8	4	3	9	40	12
	肢体重複	1	6	4	1	4	3	19	9
	合計	13	26	22	16	15	20	112	33
中学部	単一障害	9	13	12				34	7
	重複障害	9	2	3				14	4
	肢体重複	8	5	4				17	7
	合計	26	20	19				65	18
高等部	単一障害	38	23	29				90	12
	重複障害	3	2	3				8	3
	肢体重複	4	3	1				8	4
	合計	45	28	33				106	19

4 起因疾患別児童生徒数

(令和6年10月31日現在) (単位:人)

区 分	知的障害	自閉症スペクトラム	染色体異常	脳性麻痺	その他の疾患	計
小学部	9	62	18	7	16	112
中学部	9	27	7	14	8	65
高等部	34	49	12	8	3	106
計	52	138	37	29	27	283

特別支援学校における生産物売払調

令和6年度

(令和6年10月31日現在)

	主な生産品目		
6 年 度	<陶芸品> 平皿、ビアマグ、箸置き、丸皿、角皿、植木鉢 <木工製品> コースター、鍋敷き、ウッドバインダー、カッティングボード <縫製品> トートバッグ、サコッシュ、マウスパッド <革工芸品> コードクリップ、カードケース、コインケース、ペンケース <園芸品> 花の苗		
	① 売払金額	29,050 円	②前年度との差額 △237,900 円
前 年 度	<陶芸品> 平皿、デザイン皿、小鉢、湯飲み、ビアマグ、井 <木工製品> コースター、鍋敷き、ウッドバインダー、カッティングボード マグネット、トレイ <縫製品> ハンカチ、エコバッグ、ランチバッグ、ミニポーチ、ティッシュボックス カバー <革工芸品> ベルトキーホルダー、トレイ、ストラップ、キーケース、コードクリップ、		

	名札、コインカードケース、オーダーストラップ		
	<園芸品> サシェ、花の苗 <紙工芸品> メッセージカード封筒付き <手工芸品> 小物入れ、マルチボタン、油拭き取りパック		
	① 売払金額	266,950 円	② 前年度との差額 29,050 円
前々年度	<陶芸品> 平皿、ビアマグ、湯飲み <木工製品> ウッドコースター、ウッドバインダー、ウッドボード、スマホスタンド、タブレットスタンド、小物入れ <縫製品> エコバッグ、トートバッグ、巾着付き弁当袋 <革工芸品> ベルトキーホルダー、ストラップ、名札入れ <園芸品> サシェ、花の苗 <手工芸品> 小物入れ、コースター		
	① 売払金額	237,900 円	② 前年度との差額 33,400 円

* 過去3年分を記載すること。

預 金 調

(令和6年10月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残 高 (円)	摘 要
静岡銀行 小林支店	無利息型 普通預金	0428991	静岡県立浜北特別支援学校 資金前渡者 八幡正信	5,000	給与・交際費等
静岡銀行 小林支店	無利息型 普通預金	0429143	(自振口) 静岡県立浜北特別支援学校 資金前渡者 八幡正信	0	公共料金等引落
浜松磐田信用金庫 於呂支店	無利息型 普通預金	2143329	静岡県立浜北特別支援学校 奨励費代理受領者 校長 八幡正信	0	就学奨励費
浜松磐田信用金庫 於呂支店	無利息型 普通預金	2144456	静岡県立浜北特別支援学校 資金前渡者 八幡正信	0	払込用
残 高 合 計				5,000	

郵 券 等 受 払 調

(令和6年10月31日現在)

(単位:枚、円)

区分	種類	令和5年度						令和6年度								摘要
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵券	120円券	34	4,080	50	6,000	33	3,960	51	6,120			32	3,840	19	2,280	公務 連絡用
	110円券									100	11,000	14	1,540	86	9,460	
	84円券	57	4,788	300	25,200	269	22,596	88	7,392	61	5,124	149	12,516			
	63円券	6	378			6	378									
	26円券									22	572	22	572			
	10円券	134	1,340			60	600	74	740			37	370	37	370	
計			10,586		31,200		27,534		14,252		16,696		18,838		12,110	

材 料 品 受 払 調

(令和6年10月31日現在)

区 分 品 名	令 和 5 年 度						令 和 6 年 度								摘要
	繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引	現在高	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	
木材	本	円	本 229	円 63,838	本 229	円 63,838	本	円	本 208	円 54,703	本 208	円 54,703	本	円	
陶芸用粘土	袋	円	袋 4	円 13,860	袋 4	円 13,860	袋	円	袋 5	円 21,450	袋 5	円 21,450	袋	円	
牛革	枚	円	枚 1	円 33,920	枚 1	円 33,920	枚	円	枚 2	円 73,120	枚 2	円 73,120	枚	円	
布	枚	円	枚 42	円 56,162	枚 42	円 56,162	枚	円	枚 31	円 54,070	枚 31	円 54,070	枚	円	
糸	個	円	個	円	個	円	個	円	個 12	円 6,468	個 12	円 6,468	個	円	
タイ産 ホールコーンパ	袋	円	袋 4	円 3,560	袋 4	円 3,560	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	
ぎょうざ	袋	円	袋 17	円 21,096	袋 17	円 21,096	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	
沖縄県産バイン缶詰	缶	円	缶 3	円 5,514	缶 3	円 5,514	缶	円	缶	円	缶	円	缶	円	
国産乾燥ひじき	袋	円	袋 9	円 19,664	袋 9	円 19,664	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	
国産ごぼう	袋	円	袋 2	円 2,540	袋 2	円 2,540	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	
国産さといも	袋	円	袋 6	円 8,670	袋 6	円 8,670	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	
県内産みかんのタルト	個	円	個 375	円 23,490	個 375	円 23,490	個	円	個	円	個	円	個	円	
肉ごぼう 包子(パオズ)	トレー	円	トレー 52	円 48,017	トレー 52	円 48,017	トレー	円	トレー	円	トレー	円	トレー	円	
国産糸こんぶ	袋	円	袋 7	円 10,160	袋 7	円 10,160	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	
型抜きチーズ	箱	円	箱 35	円 17,615	箱 35	円 17,615	箱	円	箱	円	箱	円	箱	円	
県内産かます 米粉お茶フライ	個	円	個 618	円 59,839	個 618	円 59,839	個	円	個	円	個	円	個	円	
国産白花豆 ドライパック	袋	円	袋 7	円 9,782	袋 7	円 9,782	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	
さんま開き澱粉付	個	円	個 687	円 80,406	個 687	円 80,406	個	円	個	円	個	円	個	円	
タイ産緑豆春雨	袋	円	袋 15	円 19,391	袋 15	円 19,391	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	
まぐろ油漬パウチ	袋	円	袋 4	円 7,668	袋 4	円 7,668	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	
国産うずら卵 水煮パウチ	袋	円	袋 6	円 9,098	袋 6	円 9,098	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	
県内産たけのこ水煮	袋	円	袋 12	円 28,538	袋 12	円 28,538	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	
輸入蒸しひよこ豆 ドライパック	袋	円	袋 8	円 5,573	袋 8	円 5,573	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	
北海道産 ホールコーンパウチ	袋	円	袋 3	円 3,256	袋 3	円 3,256	袋	円	袋	円	袋	円	袋	円	
県内産みかんゼリー	個	円	個 455	円 21,682	個 455	円 21,682	個	円	個	円	個	円	個	円	
レアチーズケーキ	個	円	個 370	円 25,574	個 370	円 25,574	個	円	個	円	個	円	個	円	
原料米10割 (静岡県産)	kg	円	kg 1,800	円 583,200	kg 1,800	円 583,200	kg	円	kg	円	kg	円	kg	円	
計		0		1,182,113		1,182,113		0		209,811		209,811		0	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節 名	会 計	款	項	目	執 行 済 額 (円)		
					令和4年度	令和5年度	左のうち、前年度からの繰越額分
(12) 委 託 料	一般会計	教 育 費	高等学校費	高等学校管理費		780,973	
	一般会計	教 育 費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		43,398,610	
	一般会計	教 育 費	学校教育費	健康体育費		13,384,067	
計					61,365,587	57,563,650	0
(14) 工 請 負 事 費	一般会計	教 育 費	教育委員会費	教育管理費		3,351,700	
計					748,000	3,351,700	0
(16) 公 有 財 産 購 入 費	一般会計	教 育 費	教育委員会費	教育管理費		69,000	
計					0	69,000	0
(17) 備 購 入 品 費	一般会計	教 育 費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		1,531,420	
計					1,788,380	1,531,420	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般会計	教 育 費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		40,700	
計					20,500	40,700	0
(21) 補償、補填及び賠償金							
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和6年10月31日現在)

節 名	会 計	款	項	目	執 行 済 額 (円)	
						うち、前年度からの繰越額分
(12) 委 託 料	一般会計	教 育 費	高等学校費	高等学校管理費	375,771	0
	一般会計	教 育 費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	31,347,626	0
	一般会計	教 育 費	学 校 教 育 費	健 康 体 育 費	6,715,110	
計					38,438,507	0
(14) 工 請 負 事 費	一般会計	教 育 費	教育委員会費	教育管理費	0	
計					0	0
(16) 公 有 財 産 購 入 費						
計					0	0
(17) 備 購 入 品 費	一般会計	教 育 費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	115,500	
計					115,500	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般会計	教 育 費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	27,500	0
計					27,500	0
(21) 補償、補填及び賠償金						
計					0	0

委 託 料 に 関 す る 調

(令和5年度)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の 内 容	摘要
				当初額	変更 増減額	計						
1	給食業務	(株)ミカサ	円 43,792,100	円 37,540,800	円 3,771	円 37,544,571	一 般	2. 8. 1 ～ 5. 7. 31	5. 5. 31 5. 6. 30 5. 7. 31 5. 8. 31 小計	円 (33,369,600) 1,042,800 1,043,491 1,044,340 1,044,340 4,174,971	学校給食調 理・配膳業 務	R 2 長期
2	給食業務	(株)ミカサ	54,656,705	39,523,000	0	39,523,000	一 般	5. 8. 7 ～ 8. 7. 31	5. 9. 29 5.10.31 5.11.30 5.12.27 6. 1. 31 6. 2. 29 6. 3. 29 6. 4. 26 小計	(0) 1,100,000 1,100,000 1,100,000 1,100,000 1,100,000 1,100,000 1,100,000 8,800,000	学校給食調 理・配膳業 務	R 5 長期
3	スクール バス運行 管理業務	大新東(株) 静岡営業 所	17,094,875	13,860,000	0	13,860,000	一 般	3. 4. 1 ～ 6. 3. 31	5. 5. 31 5. 6. 30 5. 7. 31 5. 8. 31 5. 9. 29 5.10.31 5.11.30 5.12.27 6. 1. 31 6. 2. 29 6. 3. 29 6. 4. 30 小計	(9,240,000) 385,000 385,000 385,000 385,000 385,000 385,000 385,000 385,000 385,000 385,000 385,000 385,000 4,620,000	通学・校外 活動の送迎 車 両 の 点 検・管理業 務 1 台	R 3 長期
4	通学バス 輸送業務	遠州鉄道 (株)	89,908,500	48,989,391	0	48,989,391	一 般	3. 4. 1 ～ 6. 3. 31	5. 5. 31 5. 6. 30 5. 7. 31 5. 8. 31 5. 9. 29 5.10.31 5.11.30 5.12.27 6. 1. 31 6. 2. 29 6. 3. 29 6. 4. 30 小計	(32,659,584) 1,360,816 1,360,816 1,360,816 1,360,816 1,360,816 1,360,816 1,360,816 1,360,816 1,360,816 1,360,816 1,360,816 1,360,831 16,329,807	通学・校外 活動の送迎 業務 2 台	R 3 長期
5	通学バス輸 送業務(5 年度1台増 車)	浜松バス (株)	11,352,990	11,259,600	0	11,259,600	一 般	5. 4. 1 ～ 6. 3. 31	5. 5. 31 5. 6. 30 5. 7. 31 5. 8. 31 5. 9. 29 5.10.31 5.11.30 5.12.27	938,300 938,300 938,300 938,300 938,300 938,300 938,300 938,300	通学の迎車 業務 1 台	

									6. 1.31 6. 2.29 6. 3.29 6. 4.26 小計	938,300 938,300 938,300 938,300 11,259,600		
6	通学バス輸 送業務(新 型コロナウ イルス感染 症対策)	浜松バス (株)	10,590,140	10,175,000	0	10,175,000	一 般	5. 4. 1 ～ 5. 7.31	5. 5.31 5. 6.30 5. 7.31 5. 8.31 小計	2,200,000 2,750,000 3,025,000 2,200,000 10,175,000	通学の迎車 業務 3 台	
7	エレベーター保守 点検業務	㈱日立ビル システム 中部支社	673,200	673,200	0	673,200	随 契	5. 4. 1 ～ 6. 3.31	5. 5.31 5. 6.30 5. 7.31 5. 8.31 5. 9.29 5.10.31 5.11.30 5.12.27 6. 1.31 6. 2.29 6. 3.29 6. 4.26 小計	56,100 56,100 56,100 56,100 56,100 56,100 56,100 56,100 56,100 56,100 56,100 56,100 56,100 673,200	遠隔監視及 び点検調整 修理業務	随契 1 号 (少額)
8	可燃物収 集運搬処 分業務	(有)大野 商会	1,374,670	収集・運搬料 1 回当たり 3,410 円 処分手数料 14.3 円/kg	0	収集・運搬料 1 回当たり 3,410 円 処分手数料 14.3 円/kg	指 名	5. 4.11 ～ 6. 3.29	5. 5.31 5. 6.30 5. 7.31 5. 8.31 5. 9.29 5.10.31 5.11.30 5.12.27 6. 1.31 6. 2.29 6. 3.29 6. 4.26 小計	88,394 117,220 132,863 110,156 69,334 115,218 132,656 114,946 110,985 105,888 98,180 115,232 1,311,072	可燃物収集 運搬処分業 務	単価契約 浜 名 高 浜北西高
9	産業廃棄物 収集運搬処 分業務	(株)リサイ クルクリ ーン	51,700	51,700	0	51,700	随 契	5. 7.26 ～ 5.10.31	5.10.26	51,700	産業廃棄物 収集運搬処 分業務	随契 1 号 (少額)
10	産業廃棄物 収集運搬処 分業務	(株)リサイ クルクリ ーン	51,700	51,700	0	51,700	随 契	6. 2. 8 ～ 6. 3.29	6. 4.26	51,700	産業廃棄物 収集運搬処 分業務	随契 1 号 (少額)
11	厨房グリストラ ップ清掃及び産 業廃棄物収 集運搬処分 業務	(株)太洋サ ービス	58,300	58,300	0	58,300	随 契	5. 9.21 ～ 5.11.30	5.12. 4	58,300	グリストラ ップ 廃油(汚泥) 収集運搬処 分業務	随契 1 号 (少額)
12	厨房グリストラ ップ清掃及び産 業廃棄物収 集運搬処分 業務	(株)太洋サ ービス	58,300	58,300	0	58,300	随 契	6. 2. 8 ～ 6. 3.29	6. 4.12	58,300	グリストラ ップ 廃油(汚泥) 収集運搬処 分業務	随契 1 号 (少額)
	合 計	12 件								57,563,650		

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の 内 容	摘要
				当初額	変更 増減額	計						
参考 1	警備業務	セコム(株)		10,164,000	0	10,164,000		1. 10.1 ～ 6. 9.30			事務室等機械警備業務	浜松工業高
参考 2	消防用設備等保守点検業務	静岡県消防設備保守点検業協同組合		19,030,000	0	19,030,000		5. 4. 1 ～ 6. 3.31			消防用設備等保守点検業務	浜松湖北高
参考 3	自家用電気工作物保安管理業務	遠鉄アシスト(株)		4,625,280	0	4,625,280		5. 4. 1 ～ 6. 3.31			電気工作物保安管理業務	浜松城北工業高
参考 4	プール浄化装置保守点検業務	清化工業(株)		998,800	0	998,800		5. 4.10 ～ 5.11.30			プール浄化装置保守点検業務	浜松東高
参考 5	防鼠防虫業務	(株)帝装化成浜松営業所		459,800	0	459,800		5. 4.14 ～ 6. 3.29			学校給食施設の防鼠防虫業務	浜松特支
計		5 件										

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)
(令和6年10月31日現在)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の 内 容	摘要
				当初額	変更 増減額	計						
1	給食業務	(株)ミカサ	円 43,792,100	円 39,523,000	円 0	円 39,523,000	一 般	5. 8. 7 ～ 8. 7. 31	6. 5. 31 6. 6. 28 6. 7. 31 6. 9. 2 6. 9. 30 6.10. 31 小計	円 (8,800,000) 1,100,000 1,100,000 1,100,000 1,100,000 1,100,000 1,100,000 6,600,000	学校給食 調理・配 膳業務	R5 長期
2	スクール バス運行 管理業務	大新東(株) 静岡営業 所	18,914,765	15,048,000	0	15,048,000	一 般	6. 4. 1 ～ 9. 3. 31	6. 5. 31 6. 6. 28 6. 7. 31 6. 8. 30 6. 9. 30 6.10. 31 小計	(0) 418,000 418,000 418,000 418,000 418,000 418,000 2,508,000	通学・校 外活動の 送迎車両 の点検・ 管理業務 1 台	R6 長期
3	通学バス輸 送業務	浜松バス (株)	169,676,100	169,676,100	0	169,676,100	一 般	6. 4. 1 ～ 9. 3. 31	6. 5. 31 6. 6. 28 6. 7. 31 6. 8. 30 6. 9. 30 6.10. 31 小計	(0) 4,713,225 4,713,225 4,713,225 4,713,225 4,713,225 4,713,225 28,279,350	通学・校 外活動の 送迎車両 の点検・ 管理業務 3 台	R6 長期
4	エレベーター保守 点検業務	(株)日立ビル システム 中部支社	765,600	765,600	0	765,600	随 契	6. 4. 1 ～ 7. 3. 31	6. 5. 31 6. 6. 28 6. 7. 31 6. 8. 30 6. 9. 30 6.10. 31 小計	63,800 63,800 63,800 63,800 63,800 63,800 382,800	遠隔監視 及び点検 調整修理 業務	随契1号 (少額)
5	可燃物収 集運搬処 分業務	(有)大野 商会	1,427,140	収集・運搬料 1 回当たり 3,410 円 処分手数料 14.3 円/kg	収集・運搬料 1 回当たり 3,410 円 処分手数料 14.3 円/kg		随 契	6. 4. 1 ～ 7. 3. 31	6. 5. 31 6. 6. 28 6. 7. 31 6. 8. 30 6. 9. 30 6.10. 31 小計	111,306 120,101 111,614 112,600 57,894 103,142 616,657	可燃物収 集運搬処 分業務	単価契約 浜 名 高 浜北西高
6	産業廃棄物 収集運搬処 分業務	(株)リサイ クルクリ ーン	51,700	51,700		51,700	随 契	6. 5. 1 ～ 6. 7. 31	6. 8. 6	51,700	産業廃棄 物収集運 搬処分業 務	随契1号 (少額)
7	厨房グリストラッ プ清掃及び産 業廃棄物収 集運搬処分 業務	(株)太洋サ ービス	58,300	58,300		58,300	随 契	6. 9. 20 ～ 6.11. 29		0	グリストラッ プ 廃油(汚 泥)収 集 運搬処分 業務	随契1号 (少額)
	合 計	7件								38,438,507		

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の 内 容	摘要
				当初額	変更 増減額	計						
参考 1	警備業務	セコム(株)		10,164,000	0	10,164,000		1. 10.1 ～ 6. 9.30			事務室等機 械警備業務	浜松工業 高
				14,256,000	0	14,256,000		6.10.1 ～ 11.9.30			事務室等機 械警備業務	浜松工業 高
参考 2	消防用設備等保守点検業務	静岡県消防設備保守点検業協同組合		18,810,000	0	18,810,000		6. 4. 1 ～ 7. 3.31			消防用設備等保守点検業務	浜松湖北高
参考 3	自家用電気工作物保安管理業務	遠鉄アシスト(株)		4,755,960	356,741	5,112,701		6. 4. 1 ～ 7. 3.31			電気工作物保安管理業務	浜松城北工業高
参考 4	プール浄化装置保守点検業務	清化工業(株)		998,800	0	998,800		6. 4.8 ～ 6.12.27			プール浄化装置保守点検業務	浜松東高
参考 5	防鼠防虫業務	(株)帝装化成浜松営業所		548,020	0	548,020		6. 4.12 ～ 7. 3.31			学校給食施設の防鼠防虫業務	浜松特支
計		5 件										

負 担 金 支 出 調

(令和 5 年度)

整理 番号	負担金名	交 付 先	負 担 根 拠	事 業 内 容	負担金額	支出年月日
1	特別管理産業廃棄物管理責任者講習会受講料	公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター	講習通知	特別管理産業廃棄物管理責任者に関する講習会	円 13,200	5. 5. 22
2	全国特別支援学校知的障害教育校長会会費	全国特別支援学校知的障害教育校長会会長	会 則	学校の管理運営に関する調査研究	円 15,000	5. 7. 20
3	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会長	規 約	教育の充実・改善の推進及び教育上の調査研究	5,000	5. 7. 28
4	会議参加費	第 46 回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会北海道(札幌)大会実行委員長	開催通知	第 46 回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会北海道(札幌)大会	3,000	5. 7. 31
5	講習参加費	一般社団法人静岡県安全運転管理協会	講習通知	道路交通法による安全運転管理者等講習	4,500	5. 8. 23
計		5 件			40,700	

負 担 金 支 出 調

(令和 6 年度)

(令和 6 年 10 月 31 日現在)

整理 番号	負担金名	交 付 先	負 担 根 拠	事 業 内 容	負担金額	支出年月日
1	全国特別支援学校知的障害教育校長会会費	全国特別支援学校知的障害教育校長会会長	会 則	学校の管理運営に関する調査研究	円 15,000	6. 7. 12
2	会議参加費	第 47 回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会北海道(香川)大会実行委員長	開催通知	第 47 回全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会北海道(香川)大会	3,000	6. 7. 25
3	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会会長	規 約	教育の充実・改善の推進及び教育上の調査研究	5,000	6. 7. 26
4	講習参加費	一般社団法人静岡県安全運転管理協会	講習通知	道路交通法による安全運転管理者等講習	4,500	6. 8. 21
計		4 件			27,500	

建 築 工

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 設 計 金 額 初 額	契 約 金	
					当 初 額	変 更 増 減 額
1	教育管理費	令和5年度浜北 特別支援学校高 等部棟教室間仕 切り修繕工事	浜松市浜名区 西中瀬地内	円 858,000	円 858,000	円 0
2	教育管理費	令和5年度浜北 特別支援学校ガ ス設備更新工事	浜松市浜名区 西中瀬地内	682,000	669,900	0
3	教育管理費	令和5年度浜北 特別支援学校加 圧給水ポンプ修 繕工事	浜松市浜名区 西中瀬地内	979,000	979,000	0
4	教育管理費	令和5年度浜北 特別支援学校 プールのスロー プ塗装修繕工事	浜松市浜名区 西中瀬地内	319,000	308,000	0
5	教育管理費	令和5年度浜北 特別支援学校管 理棟西面窓ロー ルスクリン設 置工事	浜松市浜名区 西中瀬地内	539,000	536,800	0
		合 計	5 件	3,377,000	3,351,700	0

令和6年度該当なし

事 調

(令和5年度)

額	契約締結方法	受注者	着手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
計							
円				円			
858,000	随契	常盤工業(株)	着手 5. 8. 2 完成 5. 9. 6	858,000	教室スライディングウォールのレール、ランナー一式交換	—	随契1号(少額) 令達年月日 5. 7. 20 支払年月日 5. 10. 10
669,900	随契	(株)丸岡工業	着手 5. 11. 10 完成 6. 1. 9	669,900	遮断弁コントローラー、遮断弁、ガスメーター交換	—	随契1号(少額) 令達年月日 5. 10. 17 支払年月日 6. 1. 26
979,000	随契	日管(株)	着手 6. 1. 24 完成 6. 3. 28	979,000	インバーター、逆止弁、ポンプ整備部品の交換	—	随契1号(少額) 令達年月日 6. 1. 12 支払年月日 6. 4. 30
308,000	随契	(株)園田塗装店	着手 6. 1. 24 完成 6. 3. 27	308,000	プールのスロープ塗装修繕 19.5㎡	—	随契1号(少額) 令達年月日 6. 1. 9 支払年月日 6. 4. 19
536,800	随契	(株)リビングサンアイ	着手 6. 2. 13 完成 6. 3. 27	536,800	ロールスクリーン(遮光、防災、チェーン式)設置	—	随契1号(少額) 令達年月日 6. 2. 1 支払年月日 6. 4. 19
3,351,700				3,351,700			

公 有 財 産 調

(令 和 5 年 度)

区 分	令和5年3月31日現在		増		減		令和6年3月31日現在		摘 要
	数 量 又 は 面 積	台帳価格	数量又 は面積	台帳価格	数量又 は面積	台帳価格	数 量 又 は 面 積	台帳価格	
行 政 財 産		千円 1,702,121		千円 0		千円 57,909		千円 1,644,212	
土 地	m ² 18,000.00	750,394					m ² 18,000.00	750,394	
立 木 竹	本 61	3,553					本 61	3,553	
建 物	m ² 4,677.08 7,583.39	800,716				39,130	m ² 4,677.08 7,583.39	761,586	
工 作 物	個 57	147,458				18,779	個 57	128,679	
普 通 財 産		0		0		0		0	
土 地	m ² 0.00						m ² 0.00		
建 物	m ² 0.00 0.00						m ² 0.00 0.00		
工 作 物	個 0						個 0		
公有財産に準ずるもの		30		0		0		30	
電話加入権	件 3	30					件 3	30	

公 有 財 産 調

(令 和 6 年 度)

区 分	令和6年3月31日現在		増		減		令和6年10月31日現在		摘 要
	数 量 又 は 面 積	台帳価格	数量又 は面積	台帳価格	数量又 は面積	台帳価格	数 量 又 は 面 積	台帳価格	
行 政 財 産		千円 1,644,212		千円 0		千円 0		千円 1,644,212	
土 地	m ² 18,000.00	750,394	1.2				m ² 18,001.20	750,394	換地 処分
立 木 竹	本 61	3,553					本 61	3,553	
建 物	m ² 4,677.08 7,583.39	761,586					m ² 4,677.08 7,583.39	761,586	
工 作 物	個 57	128,679					個 57	128,679	
普 通 財 産		0		0		0		0	
土 地	m ² 0.00						m ² 0.00		
建 物	m ² 0.00 0.00						m ² 0.00 0.00		
工 作 物	個 0						個 0		
公有財産に準ずるもの		30		0		0		30	
電話加入権	件 3	30					件 3	30	

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和6年度)

(令和6年10月31日現在)

区分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契 約 額 の 年 度 別 内 訳)						
				令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
長期 継続 契約	スクールバス 運行管理業務委託	スクールバス 運行管理業務 1台 (契約日) 令和3年4月1日	円 13,860,000	円	円 4,620,000	円 4,620,000	円 4,620,000	円	円	円
		スクールバス 運行管理業務 1台 (契約日) 令和6年4月1日	円 15,048,000					円 5,016,000	円 5,016,000	円 5,016,000
	通学バス輸送 業務委託	通学バス輸送 業務 2台 (契約日) 令和3年4月1日	円 48,989,391		円 16,329,792	円 16,329,792	円 16,329,807			
		通学バス輸送 業務 3台 (契約日) 令和6年4月1日	円 169,676,100					円 56,558,700	円 56,558,700	円 56,558,700
	給食業 務委託	給食の調理配 膳業務 (契約日) 令和2年8月1日	円 37,544,571	円 8,342,400	円 12,513,600	円 12,513,600	円 4,174,971			
		給食の調理配 膳業務 (契約日) 令和5年8月3日	円 39,523,000				円 8,800,000	円 13,200,000	円 13,200,000	円 4,323,000

行政財産貸付・使用許可調

(令和6年10月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者 の 氏 名	貸付・使用 許可目的
				台帳	現況		単価	年 額			
1	土地	学校 敷地	浜松市浜名区 西中瀬2丁 目3番1号	宅地	学校 敷地	電柱4本	1,500	円 6,000	3. 4. 1 ～ 8. 3. 31	中部電力パワー グリッド(株) 浜北営業所長	電力供給・電 気通信事業設 備設置
2	土地	学校 敷地	浜松市浜名区 西中瀬2丁 目3番1号	宅地	学校 敷地	0.69 m ²	-	免除	2. 4. 1 ～ 7. 3. 31	浜松市長	道路反射鏡設 置
3	土地	学校 敷地	浜松市浜名区 西中瀬2丁 目3番1号	宅地	学校 敷地	0.21 m ²	-	免除	2. 4. 1 ～ 7. 3. 31	中瀬4区 自治会長	街灯設置
4	建物	事務 所建	浜松市浜名区 西中瀬2丁 目3番1号	宅地	学校 敷地	549.85 m ²	-	免除	5.11.19	中瀬南部 土地整理組合 理事長	公共的事業
合 計								6,000			

主 要 備 品 調

(令和6年10月31日現在)

整理 番号	区 分		品 名 ・ 規 格	利 用 状 況	購 入 年 月	購入金額
	大・中	小				
1	1-13	その他の厨房器具	真空冷却機 三浦工業 KIG2D-15KH	毎日(年間190日) 給食調理に使用	平成21年3月	円 2,587,200
2	1-13	加熱器具	ガススチームコンベクションオープン コメットカトウ CSVH-G10-T	毎日(年間190日) 給食調理に使用	平成27年2月	1,998,000
3	2-1	パーソナルコン ピュータ(一式)	パーソナルコンピュータ (一式) パソコン16台	毎日(年間200日) 情報の授業に使用	平成29年1月	1,956,010
4	6-9	木工用機械	丸鋸盤 石津製作所 ISC-1300	週3日(年間120日) 作業学習に使用	平成21年3月	1,900,500
5	6-9	木工用機械	かんな盤 鈴三鉄工所 GN-45	週1日(年間40日) 作業学習に使用	平成21年3月	1,430,100
6	10-8	その他の芸術用 器具	陶芸窯 浜松ヒートテック KRK-20B	週1日(年間40日) 作業学習に使用	平成21年3月	1,249,500
7	1-13	食品食器洗浄機	ドアタイプ洗浄機 アイホー ASG-60	毎日(年間190日) 給食調理に使用	平成21年3月	1,096,200
8	1-13	その他の厨房器具	電気式食器消毒保管庫 アイホー EW-2003	毎日(年間190日) 給食調理に使用	平成21年3月	1,092,000
9	1-4	移動書庫	縦型移動棚 オカムラ ROD7AZ	毎日(年間365日) 書類の保管に使用	平成21年3月	745,500
10	1-13	調理器具	ガス回転釜 桐山工業 KIG2D-15KH	毎日(年間190日) 給食調理に使用	平成21年3月	729,750
11	1-13	食品保存庫	電気式消毒保管機 中西製作所 MCSK-10-eT	毎日(年間190日) 給食調理に使用	令和2年3月	713,900
12	3-3	プロジェクター	移動プロジェクター一式	各クラス月2回 (各クラス年間24日) 各授業に使用	平成31年3月	693,360
13	1-13	調理器具	ガス回転釜 服部工業 GHSL-30(特)	毎日(年間190日) 給食調理に使用	平成23年3月	682,395
14	1-13	冷蔵(凍)庫	パススルー冷蔵庫 福島工業 PRD-40RM1-G	毎日(年間190日) 給食調理に使用	平成21年3月	678,300
15	6-9	その他の木工用 機器	集塵機 ムラコシ HM3000	週3日(年間120日) 作業学習に使用	平成21年3月	672,000
16	7-1	除草用機器	芝刈機 バロネス GM64A-M	月1回(年間12日) 除草に使用	平成21年3月	619,500
17	1-13	調理器具	マイコン式立体炊飯器 アイホー RMG-153R	毎日(年間190日) 給食調理に使用	平成21年3月	558,600
18	1-13	調理器具	マイコン式立体炊飯器 アイホー RMG-153R	毎日(年間190日) 給食調理に使用	平成21年3月	558,600
19	1-13	冷蔵(凍)庫	冷凍冷蔵庫 福島工業 URN-52PM1	毎日(年間190日) 給食調理に使用	平成21年3月	541,800
20	2-1	その他の情報処 理機器	校内LANサーバ等一式	毎日(年間365日) データ管理に使用	平成29年3月	529,308

職 員 調

(令和6年10月31日現在)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	校 長	八 幡 正 信	総 括	□ □ □	□年□月	□□□□
2	副 校 長	鈴 木 真 一	総 括	□ □ □	□年□月	□□□□
3	教 頭	袴田 由美子	総 括	□ □ □	□年□月	□□□□
4	事 務 長	清 水 百 代	事務総括	□ □ □	□年□月	□□□□
5	教 諭	藤城 加奈子	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
6	〃	青 木 満 美	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
7	〃	村 松 晴 巳	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
8	〃	佐 藤 佳 奈	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
9	〃	花 井 千 賀 子	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
10	〃	中 西 理 栄	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
11	〃	藤 田 鉄 二	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
12	〃	菊 地 智 佳	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
13	〃	立 部 啓 子	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
14	〃	松 河 弘 子	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
15	〃	神 家 志 保	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
16	〃	村 井 公 子	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
17	〃	落 合 江 美	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
18	〃	阿 部 雅 野	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
19	〃	熊 谷 恵 里	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
20	〃	山 本 清 美	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
21	〃	小 川 美 香	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
22	〃	藤城 ゆかり	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
23	〃	大 庭 清 央	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
24	〃	宮 野 彩	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
25	〃	齊 藤 武 明	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
26	〃	滝 川 友 梨 子	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
27	〃	犬 塚 広 樹	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
28	〃	塩 崎 め ぐ み	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
29	〃	内 藤 有 希 子	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
30	〃	杉 山 知 子	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
31	〃	渡 邊 和 綱	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
32	〃	村 松 紗 千 子	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
33	〃	池 田 伸 太 郎	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
34	〃	寺 澤 智 香	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
35	〃	河 原 崎 純	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
36	〃	袴 田 裕 之	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
37	〃	堀 内 雅 子	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
38	〃	城 歩	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
39	教 諭	金 森 寛子	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
40	〃	高 塚 紳宏	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
41	〃	嶋 優 季	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
42	〃	下出 紘一郎	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
43	〃	松 下 侑樹	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
44	〃	天谷 由香里	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
45	〃	高 山 直子	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
46	〃	塚 本 直子	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
47	〃	中 道 佑華	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
48	〃	高 崎 亮	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
49	〃	鈴 木 綾子	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
50	〃	花 前 二未	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
51	〃	望 月 真帆	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
52	〃	石 谷 優二	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
53	〃	杉 浦 健太	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
54	〃	石 田 航介	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
55	〃	加 藤 充	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
56	〃	永 井 利明	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
57	〃	友 田 健豊	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
58	〃	細 澤 輝	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
59	〃	門 西 大樹	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
60	〃	島 袋 真治	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
61	〃	桑 原 春菜	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
62	〃	八木 寿実子	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
63	〃	加 藤 亜美	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
64	〃	栗 田 翔子	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
65	〃	昼間 真知子	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
66	〃	牧 野 琴美	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
67	〃	市 瀬 郁恵	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
68	〃	大 類 健介	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
69	〃	山 口 直樹	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
70	〃	末 永 智沙	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
71	〃	稲葉 奈津子	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
72	〃	東 悠 貴	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
73	〃	加 藤 顕	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
74	〃	河 村 史圭	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
75	〃	矢野 幸二郎	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
76	〃	藤 本 真介	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
77	〃	水 谷 彩香	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
78	〃	村 松 直美	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
79	〃	笹 瀬 奏子	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
80	教 諭	正 久 達 也	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
81	〃	山 梨 雄 大	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
82	〃	江 間 夏 実	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
83	〃	阿 部 基 生	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
84	〃	望 月 春 香	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
85	〃	村 松 武	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
86	〃	伊 藤 豪	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
87	〃	太 田 啓 記	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
88	〃	鈴 木 文 菜	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
89	〃	内 山 涼 香	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
90	〃	鈴 木 雄 大	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
91	〃	片 山 侑 奈	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
92	〃	山 口 早 紀	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
93	〃	櫻 井 健 太	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
94	〃	根 方 純 奈	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
95	〃	高 橋 皐	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
96	〃	北 嶋 一 輝	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
97	〃	風 岡 里 奈	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
98	〃	廣 瀬 周 平	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
99	〃	鈴 木 冴 香	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
100	〃	江 頭 晏 奈	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
101	〃	若 尾 ゆ り	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
102	〃	黒 田 礼 音	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
103	〃	高 柳 里 緒	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
104	〃	後 藤 ゆ り	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
105	〃	篠 原 寛 季	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
106	〃	穂屋下 步 梨	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
107	〃	秋 山 裕 里	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
108	〃	澤 奥 理 央	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
109	〃	深 澤 菜 月	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
110	〃	鈴 木 響	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
111	〃	天城 帆 乃 香	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
112	〃	吉 沢 步	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
113	〃	杉 山 み ず ほ	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
114	〃	三 尾 咲 月 季	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
115	〃	金 原 匠	中 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
116	〃	大 石 悠 史	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□
117	〃	村 松 里 咲	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
118	〃	加 藤 愛 夏	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
119	〃	中 林 美 南 海	高 等 部	□ □ □	□年□月	□□□□

120	〃	高 林 明 音	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
整 理 番 号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
121	教 諭	土 屋 亜 海	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
122	〃	松 浦 桃 花	小 学 部	□ □ □	□年□月	□□□□
123	養護教諭	関 裕 子	養 護	□ □ □	□年□月	□□□□
124	〃	細 田 華 菜	養 護	□ □ □	□年□月	□□□□
125	栄養教諭	川 崎 真 那	給 食	□ □ □	□年□月	□□□□
126	主査	中 島 暁 子	会計・庶務	□ □ □	□年□月	□□□□
127	〃	伊 藤 靖 子	庶 務	□ □ □	□年□月	□□□□
128	主任	大 沼 梨 早	会計・管財	□ □ □	□年□月	□□□□
129	主任 技能員	前 田 さ か き	用 務	□ □ □	□年□月	□□□□
平 均 年 数					2 年 9 月	

臨時職員・非常勤職員

(令和6年10月31日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教諭(任)	藤本 信浩	高等部	□ □ □	□年□月	□□□□
2	〃	古田 八重子	小学部	□ □ □	□年□月	□□□□
3	〃	三重野 暁	中学部	□ □ □	□年□月	□□□□
4	〃	長谷川 恵子	高等部	□ □ □	□年□月	□□□□
5	〃	染葉 由布子	小学部	□ □ □	□年□月	□□□□
6	〃	樋口 力	高等部	□ □ □	□年□月	□□□□
7	〃	伊藤 祐子	小学部	□ □ □	□年□月	□□□□
8	〃	佐藤 友紀	小学部	□ □ □	□年□月	□□□□
9	〃	清水 誠志	高等部	□ □ □	□年□月	□□□□
10	〃	入澤 真衣	中学部	□ □ □	□年□月	□□□□
11	教諭(臨)	大城 直子	小学部	□ □ □	□年□月	□□□□
12	〃	高橋 香都子	小学部	□ □ □	□年□月	□□□□
13	〃	瀧口 詠子	小学部	□ □ □	□年□月	□□□□
14	〃	池谷 啓子	小学部	□ □ □	□年□月	□□□□
15	〃	熊本 真澄	中学部	□ □ □	□年□月	□□□□
16	〃	曾布川 健一	高等部	□ □ □	□年□月	□□□□
17	〃	石川 智美	高等部	□ □ □	□年□月	□□□□
18	〃	藤田 綾子	中学部	□ □ □	□年□月	□□□□
19	〃	齋藤 彩子	高等部	□ □ □	□年□月	□□□□
20	〃	松浦 隼士	小学部	□ □ □	□年□月	□□□□
21	〃	岩本 ゆり子	小学部	□ □ □	□年□月	□□□□
22	〃	内藤 亜輝亜	高等部	□ □ □	□年□月	□□□□
23	〃	鈴木 開斗	中学部	□ □ □	□年□月	□□□□
24	〃	植松 海理	高等部	□ □ □	□年□月	□□□□
25	〃	村石 遼太	中学部	□ □ □	□年□月	□□□□
26	〃	鈴木 大翔	中学部	□ □ □	□年□月	□□□□
27	医療的ケア 看護職員	岡本 美佳子	看護	□ □ □	□年□月	□□□□
28	〃	大塚 歩美	看護	□ □ □	□年□月	□□□□
29	〃	森島 久恵	看護	□ □ □	□年□月	□□□□
30	〃	知久 有利	看護	□ □ □	□年□月	□□□□
31	〃	加藤 沙侑美	看護	□ □ □	□年□月	□□□□
32	非常勤嘱託 員	鈴木 房雄	実習支援	□ □ □	□年□月	□□□□
33	〃	平井 和恵	庶務	□ □ □	□年□月	□□□□
34	非常勤講師	芳賀 稚子	中学部	□ □ □	□年□月	□□□□
35	〃	中里 匡志	小学部	□ □ □	□年□月	□□□□
36	〃	原田 悦子	リトミック	□ □ □	□年□月	□□□□

整 理 番 号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
37	非常勤講師	大石 明日香	リトミック	□ □ □	□年□月	□□□□
38	非常勤労務職員	松 井 啓 子	介 助	□ □ □	□年□月	□□□□
39	〃	黒 滝 善 子	介 助	□ □ □	□年□月	□□□□
40	〃	鈴 木 正 明	スクールバス添乗	□ □ □	□年□月	□□□□
41	〃	市川 美加江	スクールバス添乗	□ □ □	□年□月	□□□□
42	〃	鈴 木 すみ江	スクールバス添乗	□ □ □	□年□月	□□□□
43	〃	河 合 祐 二	スクールバス添乗	□ □ □	□年□月	□□□□
44	〃	川 上 順 子	スクールバス添乗	□ □ □	□年□月	□□□□
45	就労促進専門員	袴 田 佐 江	就労促進	□ □ □	□年□月	□□□□
46	学 校 医	廣 建 志	内 科	□ □ □	□年□月	□□□□
47	〃	石 井 るみ子	眼 科	□ □ □	□年□月	□□□□
48	〃	大 和 谷 崇	耳 鼻 科	□ □ □	□年□月	□□□□
49	〃	岡 田 雅 仁	整 形 外 科	□ □ □	□年□月	□□□□
50	学校歯科医	石 川 恵 一	歯 科	□ □ □	□年□月	□□□□
51	学校薬剤師	伊 藤 隆 康	薬 剤 師	□ □ □	□年□月	□□□□
52	健康管理医	大 城 一	産 業 医	□ □ □	□年□月	□□□□

職員の年齢調

(令和6年10月31日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	27	
30歳以上40歳未満	50	
40歳以上50歳未満	26	
50歳以上56歳未満	12	
56歳以上61歳未満	8	
61歳以上	6	再任用4人(フル2 短2)
計	129	平均年齢 39.5歳

健康管理

1 前年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 166 人
	職 員 数 168 人
受 診 率	98.8 %
県平均受診率	99.9%

(1) 未受診の理由
育休 2 人

2 本年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0 人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0 人
B 2		要経過観察	0 人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0 人
C 2		要経過観察	0 人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	33(2) 人
D 2		要経過観察	46(6) 人
D 3		医 療 不 要	71(14) 人
区 分 者 計			150(22) 人
未区分者数			5 人
合 計			155 人

(1) 管理区分 A～C 2 該当者
に対する措置状況

(2) 未区分の理由
ア 産休・育休 2 人
イ 新規採用 人
ウ 自己都合による未受診 人
エ その他 3 人